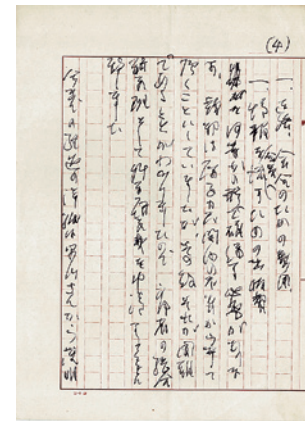
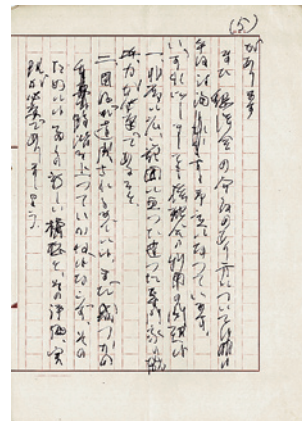
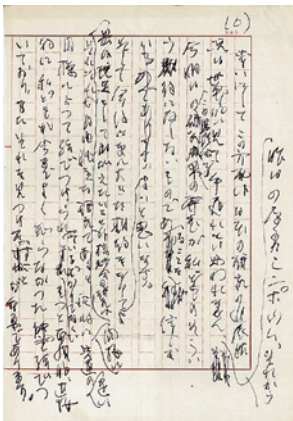
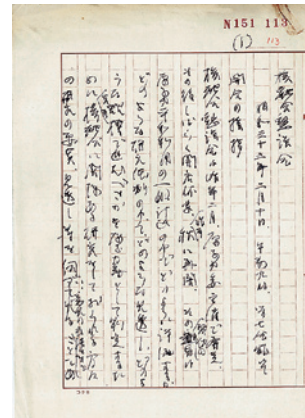
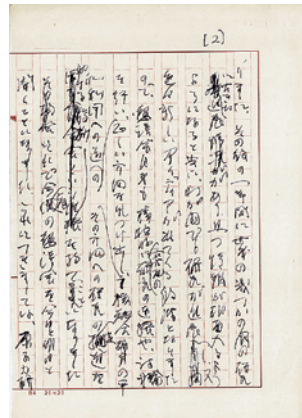
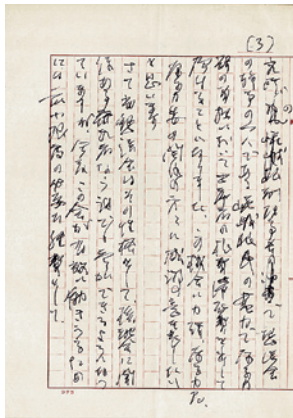


湯川秀樹氏の核融合懇談会設立における開会挨拶（手書き原稿）

謝辞：ここに掲載する資料は、京都大学基礎物理学研究所湯川記念館史料室から提供を受けました。

手書き原稿の翻刻に当たっては、核融合科学研究所名誉教授大林治夫氏及び国文学研究資料館五島敏芳氏に援助いただきました。



湯川秀樹氏挨拶

核融合懇談会

昭和三十三年二月十日 午前九時 学士会館にて

開会の挨拶

核融合懇談会は昨年二月、原子力委主催で発足、その後しばらく開店休業。昨秋に再開、その頭初の趣旨は原子力平和利用の一般計画の中でどのような規模に進むべきかを原子力委として判定するために先ず核融合に関係ある研究をしておられる方々の研究の要点、見通し等を伺い、意見の交換をするのであります。その後一年間に世界の幾つかの国の研究に大きな進展があり、且つ情報が相当入るようになって共に、わが国でも研究が進展し、又色々新しいアイデアが出てくる段階となりましたので、懇談会自身も積極的に各方面の研究の連絡や、討論を行い、核融合の平和利用への道への正しい方向を見つけ出し、その方向への研究の促進を助ける場所を持つことになりました。それで今度の懇談会を今日明日と聞くことになりました。これにつきましては、原子力研究所の副理事長で懇談会の幹事の一人である嵯峨根氏の尽力で原子力研究の負担において出席者の旅費滞在費を出していただけることになりました。この機会に力研、原子力局、原子力委の関係の方々に感謝の意を表したいと思ひます。

さて当懇談会はその性格として、核融合に関係ある研究者なら誰でも参加できるようになっていますが、今後この会が有効に働かざるためには最小限度の必要経費として

一 連絡、会合のための費用

二 情報を会員へ流すための出版費

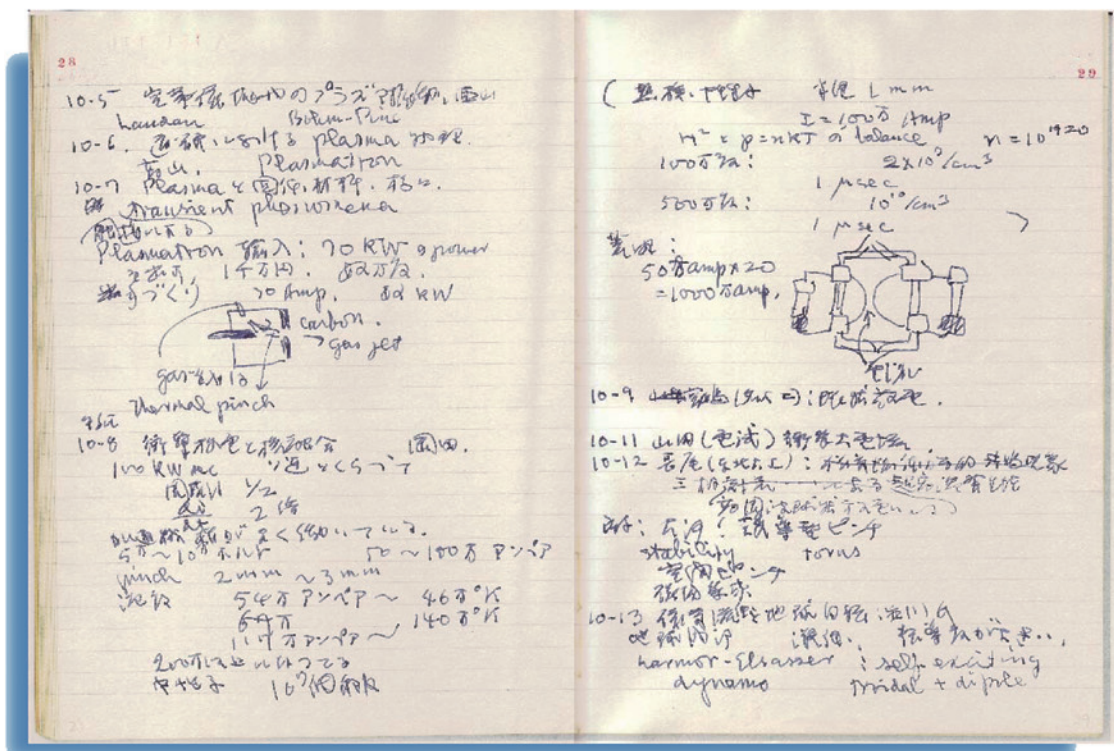
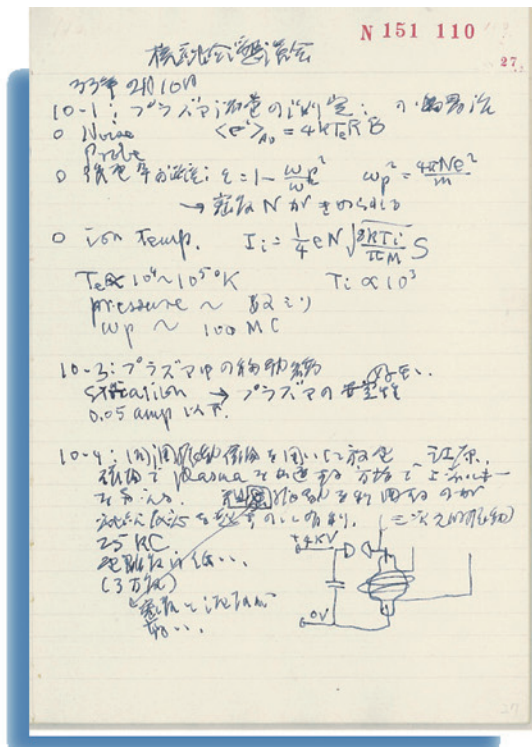
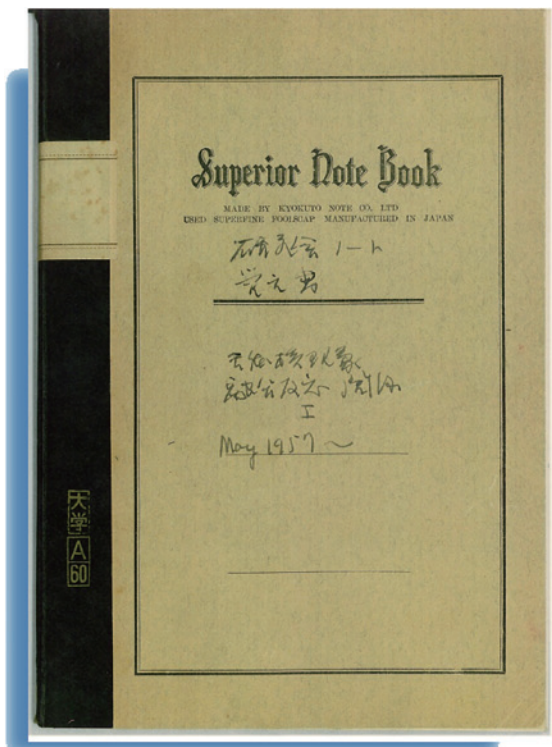
を何等かの形で確保する必要があります。頭初は原子力局関係の予算から出して頂くことにしましたが、その後それが困難であることがわかりましたので、文部省の総合研究班として科学研究費を申請することに致しました。

今までの経過の詳細は早川さんから説明があります。

また、懇談会の今後の在り方については明日午後討論する予定になっています。いづれにしても核融合の利用の問題は

一 非常に広い範囲に亘った専門家の協力が必要であること
二 目的が達成されるまでは、まだ幾つかの段階を上がっていかねばならず、そのためには多くの新しい構想と、その評価、実現が必要であります。

幸いにして、この方面は日本の研究の進展状況は世界的に見て手遅れとは思われません。昨日の原子力シンポジウム、それから今日のこの懇談会での研究成果の発表が私どものそういう期待に反しないものであることを信じ、そして今後更に大きな期待をかけてよいと思います。最後に、蛇足として付け加えたいことは核融合の研究はそれぞれに自由独立な研究であると同時に間接に共通の遠い目標によって結びつけられているばかりでなく、もつと本質的、直接的に私どもが今までよく知らなかった絆で結びついており、またそれを見つけ出すことが重要であります。



1958年核融合懇談会創設当日のシンポジウムにおける湯川秀樹の手書きメモ

